

# 「思いたったが吉日」 ダメだったならやり直せばいい

伊豆高原へゆうゆうの里

野口清美様(79歳) 平成29年3月 一人入居

働き盛りの決断。土いじりしたい

茅ヶ崎に住んでいましたが、伊豆高原に移住してから34年になります。移住は主人が53歳、私が45歳の時でした。実は主人が次期社長になる事が決まっていたので、断れない状況にありました。でも、主人は表に出るのが苦手な人だったので、「ちょうどいい、辞めちゃいなさいよ」と言って決めました。私はパッパッとやりたいタイプで、全てが「思いたったが吉日」なの。ダメだったならやり直せばいいと。



大室高原の自宅前で、ありし日のご主人様と

40代になってから

はずつと、今までやったことのないことに挑戦したいと思っていました。主人は友達と離れるのが寂しかったようですが、私は田舎育ちだから畑仕事なんか面白そうと思えました。移住してまず山野草にのめり込み、山野草を求めて山を駆けずり回りましたね。ミカン畑を営む人から、もう辞めるから400坪の土地を好きに使っていいよと言われ、近所の人を誘って一緒に開墾して、畑仕事を始めました。何かを作る事が楽しくても充実していました。

主人の三回忌が終わったら  
入居しよう

主人は足に障害があつて畑仕事は無理でしたが、「お昼担当」を買って出てくれました。「今日のお昼は何?」って、畑から聞くと「今日はお蕎麦だよ」と返ってきます。夢中になってしまいが



つくど夕方。それから私が夕食を作るのですが、お味噌汁などは主人が作ってくれました。

主人は癌で亡くなりましたが、移住して「こういう生活ができて幸せだなあ」といつも話していま

した。子供もいないので、主人とは、いずれはへゆうゆうの里へ行こうねと話していましたが、主人は癌になってしまいました。それから、私が看取ると覚悟し、主人を見送ったら絶対行くと決めました。

俳句教室の生徒の成長が楽しみ

趣味については、私は水墨画・陶芸・山野草と色々やっていますが、主人が町内会の俳句の会に入会し、ある時私を誘ってくれました。最初は「俳句なんてジジムサイ」と思ったのですが、皆さんの作品をみているうちにのめり込んでしまいました。俳句の本を買いあさり、投句をするようになると、俳句結社の先生からも誘われるようになりました。今では縁あって、伊東市から紹介された5教室で教えています。一番感じること、一生懸命努力する人は

分かるし成長が早いです。脳梗塞を患い字が書けなかった生徒さんがいらしたのですが、初めは左手ですごく大きな字で書いていたのですが、私は「とにかくどんな字でもいいから自分で書いて!」と言い続け一年位経ったら野の中になきちんと書けるようになりました。その時は感動しました。選句の時も一人ひとりを褒めて感想を書いて差し上げます。生徒の成長が本当に楽しみです。

入居して始めたギターも  
猛烈に楽しい!

伊豆に来てケイナをやっていたんですが、肺活量がだんだんなくなってきた、ケイナを吹くのは難しいかな、じゃあ次は何やろうと考えていた時にギターに出会いました。次の日にはコンシェルジュにお願いしてギターを注文。そうしたら二日後にはギターが届いてしまつて、すぐに入居者の先生に教えてくださいってお願いに行きました。始めてから一年二か月になりました。先生はとても教え方が上手です。

ここにはほっとした安らぎがあり、ストレスもなくて、私にはいいこと尽くめです。せっかかない所に来たんだから楽しまな